

以下は、地域資源マップに掲載された場所やモノの写真たちです。第1回ワークショップでは参加者のみなさまとまちあるきを行い、各所を写真に収めました。今回はその一部をご紹介します。

📍 生活拠点

7 付知総合運動公園



11 スーパーやまにし 醸造所



15 旧柳屋酒店



16 上見屋



柳屋北側 かつての「よこまち」



付知銀座の町並み



📍 文化・歴史施設

1 護山神社



3 下付知駅跡



1 倉屋神社



📍 観光・集客施設

2 温泉スタンド



付知における用水

西股用水（1851年完成）



News

旧柳屋商店にラボを開設しました
地域資源マップを作成しました

つけちレター Vol.2

2021年6月

News

旧柳屋商店にラボを開設しました

6月より、付知銀座にある旧柳屋商店の店舗部分をお借りし、現地調査の拠点となるスペースを開設しました。明治7～8年頃創業の柳屋商店は、当初よろず屋を営んでいました。昭和40～50年代には、笹屋菓子店という和菓子店を営んでいた時期もあり、「狸々柿（しょうじょうがき）もなか」が名物だったそう。その後現当主の4代目からは酒屋に絞り、昨年末まで営業を行っていました。

今年3月には研究室主体の古民家調査として初めてお邪魔し、主屋内部の間取りを調査させていただきました。そのご縁もあり、旧店舗部分の一部をお借りし、研究室の現地調査の拠点として利用させていただいています。今後は大型のスクリーンやプロジェクター、書籍等を設置して、地域のみなさまにもお使いいただける場所となるよう、少しずつ設えを整えていきます。研究室の学生1名が駐在しておりますので、ぜひお気軽にお越しください。よろしくお願いいたします。

News

地域資源マップを作成しました

前号のつけちレター Vol.1 でもお伝えした通り、3月末に第1回ワークショップを開催しました。付知町地区内の各団体の代表をはじめとする16名の方にご参加いただき、豊かな地域資源の数々をご紹介いただきました。

研究室ではこのワークショップの結果を基にして、付知町地区の地域資源マップを作成しました。作成は、旧柳屋商店のラボに滞在し調査研究を行っている学生（修士課程2年 黛風雅）が担当し、ワークショップで得られた様々な情報をマッピングしました。中ページに見開きで掲載しておりますので、ぜひ目を通していただけますと幸いです。ご意見もお待ちしております！

地域資源マップ

観光・集客施設

五社巡祭

- 1 付知峡
- 2 おんぽいの湯

付知峡のキャンプ場利用者を中心とした観光客のみならず、住民の方々もよく訪れる。付知町では多くの自宅の庭に黄色の大きなタンクがあり、軽トラに積んで「温泉スタンド」まで汲みに来る。200Lで100円であり、浴槽に入れて追い炊きをするだけで気軽に楽しめるため付知以外にも加子母の人も良く汲みに来るらしいが、福岡以南の人には黄色のタンクを珍しがられる。

付知における用水

背景) 過伐採が加速した江戸時代初期に資源保護のため留山(とめやま)制・禁伐令が敷かれた。貢租に米の代わりに木を納めていたところを、米を納めなくてはならなくなったため、農地を広げようと田畑の開墾に向けた用水路の新設・増築工事が盛んに。付知の人口が、1800年381戸2137人から1858年には530戸3110人に急増した頃に、用水の増築によって食糧不足を解消していった。

鱒淵用水(1828年完成)

山間峡谷の難所を3里に渡り掘削して作られた。曾大用水と並び近世美濃二大用水に数えられる。

西股用水(1851年完成)

取水量に関して木札で名前とともに上流側の取水に対する下流側の住民の意見があり、用水路が地域の生活とともにあることが感じられる。

荏荏用水(1852年完成)

田口慶郷による土木技術により延伸・整備され、平成に入ってもサイフォン技術で延伸されてきた。

付知町の秋季例大祭。五社[倉屋神社・大山神社・水無神社・若宮神社・子安神社]を順番に巡り、毎年一社ずつ祭典を執り行う。神事芸能として三体の人形を使った翁舞(おきなまい)[県指定重要無形文化財]が長寿・悪疫退散・天下泰平・五穀豊穡・国土安穩を祈って奉納される。

- 1 倉屋神社
- 2 大山神社
- 3 水無神社
- 4 子安神社
- 5 若宮八幡神社

文化・歴史施設

- 1 護山神社

江戸城改修のために木を切られていたころ、立て続けに起きた種々の異変を鎮めようと山の神を祀るために尾張藩からの2万両の出資により建てられた。付知では子供が生まれたらお宮参りに来る。
20年毎に執り行われる神宮[伊勢神宮]式年遷宮の要となる御槌代(みひしろ)の材料:御神木の奉曳式・奉安祭・奉送祭を執り行う「御神木祭」の出発地。

道路ネットワーク 土地利用現況

一般都道府県道	田
一般国道	畑
その他の道路	山林
バス	その他自然地
バス停	住宅用地
バス路線	工業用地
水系	農林漁業施設用地
付知町	その他空地

生活拠点

- 1 上付知簡易郵便局
- 2 コメリ
- 3 囲食家 円

生活拠点カテゴリ
○ 病院
△ 利便施設
□ 買い物
◇ 食事

【凡例】

- 観光・集客施設
- 生活拠点
- 五社巡祭
- 文化・歴史施設
- 三大用水

【付知銀座周辺拡大図】



観光・集客施設

- 3 道の駅・農産物直売所
- # 河川公園が非常に広々としており、グランピングやBBQなどの水辺のアクティビティも充実している。

およそ300名の生産者が付知内外から道の駅に出荷している。出荷数のピークである夏場の朝には農産物を運ぶトラックが200台程度集積するため、全面道路を含めかなり混雑するほどである。

生活拠点

病院

- 4 回生堂医院
- 5 喜生堂歯科医院
- 6 川東歯科医院
- 7 小南歯科医院

利便施設

- 8 付知総合運動公園
- 9 JA 付知
- 10 岐阜信用金庫

付知川の堤防ではいろんな品種の桜が植わり、咲く時期をずらして長い期間桜を楽しむようになっており、散歩ルートとして親しまれている。

買い物

- 11 さのや
- 12 スーパー やまにし
- 13 スーパー スマイル
- 14 V・drug

バスの通らない付知峡付近の交通の問題は深刻であり、「さのや」が提供する移動販売車によって助かっている。

「スーパーやまにし」では飛騨や下呂産の野菜の他、自家製の醤油、味噌も販売。かつてはスーパーの裏側で醤油などをつくっていたが、今は徒歩1〜2分離れたところで作っている。惣菜が美味しいと評判。道の駅の産直にも商品の一部卸している。産直で商品を見た観光客が、スーパーに来てくれることもある。

付知銀座のまちあるきでは、ここには昔〇〇のお店があったんだよ、というお話が。家具屋、茶碗屋、電気屋、鶏肉屋など、様々な店が軒を連ねたそう。

食事

- 15 いろり火
- 16 柳屋酒店
- 17 上見屋
- 18 一茶堂

柳屋の北側の道路は、かつては「よこまち」と呼ばれていた。付知劇場や若松荘(上見屋のように立派な旅館、堀のみ残存)があつて栄えていた。

上見屋のバス停は周辺の人たち皆が使うので、結構並んでいる。中津高校に通う高校生たちはみなここから乗ってゆくので通学時間はそれなりに混雑している。毎朝柳屋の前にバス待ちの行列ができています。

文化・歴史施設

- 2 熊谷守一つけち記念館
- 3 下付知駅跡

「川狩り」の歴史: 伊勢神宮の式年遷宮の御用材として付知川上流には神宮備林(現: 木曽ひのき美林)が守り育てられ流送によって運搬していたが、付知川と木曽川の合流地点に大井ダムが建設され、流送に替る木材運送の手段として森林鉄道が敷設された歴史がある。

北恵那鉄道下付知駅は森林鉄道とここで接続していた。切り出した材木が集められ、競売にかけられたあと、北恵那鉄道に積み替えられて運ばれていった。駅前広場には喫茶店や売店があり、周辺には製材屋が多数あったが今はほとんど残っていない。輸送手段が川流し→森林軌道→トラックと変化してきたことを物語る場所である。